



注視して欲しいのはフロントリップスポイラーとの融合だ。サイドからそのスタイルを眺めると、安定感とシャープさのバランスが素晴らしい。ボディのラインと溶け合い、さりげなく存在感を主張しているのが分かる。

リヤビューは、4本出しのマフラー（アーキキュレ製）とのコラボレーションを意識した意匠。そしてあえてカーボンの素材を見せることでスポーティ感を際立たせる。ツートーンカラーの使い分けからも、デザイナーの意志が伺える。

フロントビューの存在感に合わせた作り込みが施されたリヤセクション。三位一体が成し得たフォルムは、好感の持てるものだ。

サスペンションは、他の3Dの足

BMWのエクステリアとサスペンションを中心に、積極的にニューアイテムをリリースする3Dデザインから、E82（135iクーペ）用エアロ&サスペンションが登場した。

まずエアロパーツだが、その構成はフロントリップスポイラー、トランクスポイラー、リヤディフューザーの3点だ。どのアイテムも3Dデザインらしく、オリジナルのフォルムを尊重しながら、アクセントとして存在感を際立たせる絶妙なバランス感覚で作り返されている。

詳細を見てみよう。フロントリップは、中央に配されたダクトがスポーティなイメージを演出。先端のエッジをシャープに仕立てることでロー&ワイドなマスクイメージを構築し、精悍な印象を引き出している。しかも、このフロントリップはウレタン製で、クオリティも純正アイテムに匹敵する仕上がり。カーボンやFRPでは作り出せない造形を可能にし、耐久性などにも優れている。

フロントスカートとのマッチングは実に見事なもので、Mスポーツのデザインワークに溶け込んでいるのが分かるだろう。

Mスポーツの135iにはトランクスポイラーが純正装着されているが、3Dデザインのスポイラーはそれと付け替える純正交換タイプ。純正がほとんど存在感を主張していないのに対し、明確にイメージチェンジを図っていることが分かる。こちらもフロントリップと同様にウレタン製で、表面の品質やフィットティンなど、純正アイテムを凌ぐ出来の良さとなっている。

回りと同様にオーリンズベースのダンパーを中心に構成。走り込みによってチョイスしたスプリングと、オーリンズらしいしなやかな動き。ノーマルの足回りと比べると遙かにしっかりと感が出ていて、しかしそれほど硬さを感じさせない足になっている。動きがスムーズなので荷重移動も容易にでき、ロードホールディング性も抜群。135iのパワーに見合ったスタビリティを実現させながら、快適性とローフォルムを両立させた絶妙な味付けが施されていた。

スポーツテイストの足回りは乗り心地をスポイルしてしまう。そんな二律背反を技術力で見事に克服しているのがこのサスペンションだ。パワーを受け止める適切なダンピングにしなやかに、突き上げ感を排除した乗り味。コイツは、かなり完成度の高い足回りだと言える。



Mスポーツの純正フロントバンパーに追加されるカタチとなる、3Dのフロントリップスポイラー。ローフォルムをより強調する姿を演出し、フロントマスクに精悍さを与えるスポーティなデザイン



- 1 アーキキュレの4本出しテールマフラーに最適なマッチングを見せるリアディフューザー。カーボン素材を採用することで、スポーティなリヤビューを作り出している
- 2 アルビンホワイトのボディカラーに対して絶妙なコントラストを際立たせるのが、プロンバハのマットブラック。F:BJJ×19+46、R:9JJ×19+54
- 3 見えないダウンフォースを象徴させるトランクスポイラーは、必要最小限のボリューム感に抑えたスタイリッシュな仕上がり
- 4 オリジナルの3連メーターパネルには、スタック製のブースト計、水温計、油圧計、油温計、電圧計からチョイスしたメーターを埋め込むことができる

操作性の向上はもちろん、足元をスパルタンに演出してくれるMTペダルセットもポイント。ラバー製のポイントが配される確かなペダル操作をサポートしてくれる



E82/1 Series攻略!

さり気ない雰囲気の中に、3Dデザインのセンスが光る!

BMWが発信したコンパクトスポーツをローフォルムに仕立てながら、元の素性を崩すことなくセンス良く、スタイルアップさせた3Dデザインの135iクーペ。走る喜びをより主張するその姿をご覧ください!

Photo_KENJI ICHI Report_HIROYUKI TAKUSAGAWA Layout_ATOM STUDIO